

機能を拡張するには

IC-P2/P3には、取扱説明書の機能の他に、数多くの機能が搭載されています。本機は、運用できる機能を各部(スターマーク)の数で限定し、操作が慣れるに従って機能を追加したり、数ある機能の中から最も良く使用する機能を、個別的に運用できるように設計しています。

ICOM

TECH TALK

(No.2)

Grade up Function

IC-P2/IC-P3

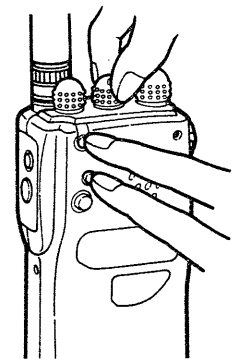
Icom Inc.

IC-P2/P3には、取扱説明書の機能の他に、数多くの機能が搭載されています。本機は、運用できる機能を各部(スターマーク)の数で限定し、操作が慣れるに従って機能を追加したり、数ある機能の中から最も良く使用する機能を、個別的に運用できるように設計しています。

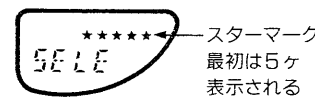
スターマークの数を変えれば機能が増える

1. 機能選択モードにする
2. スターマークの数を変える

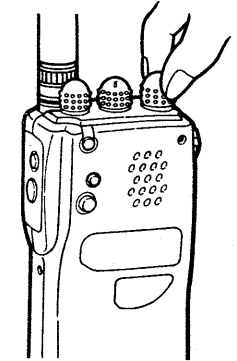
1. いったん電源を切る。
2. [S]スイッチと[MONI]スイッチを押しながら、電源を入れる。
3. [ダイヤル]を回す。
右に回すと、スターマークが増え、左に回すと、少なくなります。



ディスプレイBの表示



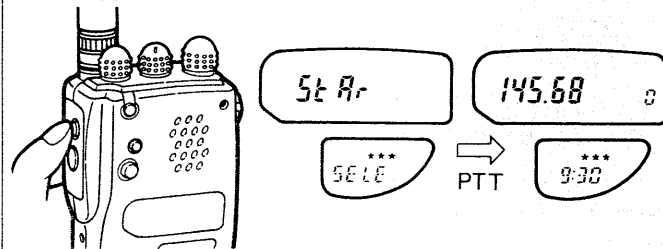
スターマーク
最初は5ヶ
表示される



4. スターマークの数は、右ページの機能表を参照しながら、あなたの使いかたに最も近い機能を選んで設定してください。

3. スターマークを決定すれば運用状態に戻す

5. [PTT]スイッチを押す。



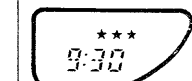
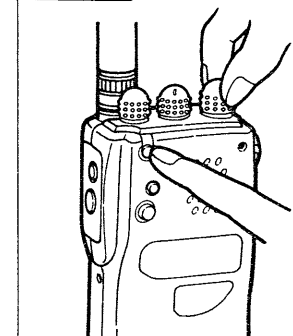
スターマークと運用できる機能

レベル	スターマーク	機能表示	機能
1	★	0:00	時刻の設定
1	★	SCAN	スキャン機能の運用
1	★	DUP	レピータの運用、オフセットの設定
2	★★	TS	周波数ステップの設定
2	★★	TONE	トーンスケルチの運用
2	★★	PGF	ページャー/コードスケルチの運用
3	★★★	PRIO	プライオリティスキャンの運用
4	★★★★	SKIP	スキップ/マスクの設定
5	★★★★★	DTMF	DTMF機能の運用
5	★★★★★	TIME	各種タイマーの設定
5	★★★★★	SET	セットモードの運用
5	★★★★★	SCAN	プログラムスキップスキャンの設定

■スターマークを決定後の操作

1. 使いたい機能呼び出す
2. 運用に入るには

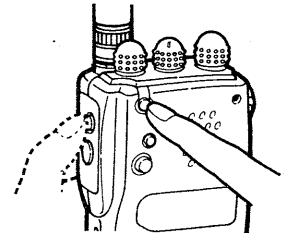
[S]スイッチを押し続けながら [ダイヤル]を回す。



ディスプレイBの機能表示が切り替わります。

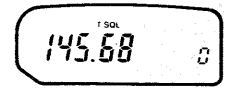


[S]スイッチを押す。
※機能によっては[F]+[S]の操作が必要となります。

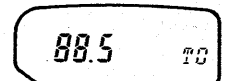


(操作例)左記のように、ディスプレイBを“TONE”表示にしておくと、

① [S]を押すごとに、トーン機能の運用モードを指定する



② [F]+[S]を押すと、トーン周波数の設定モードになる



表示する機能の順番は、本機の持つ学習機能により、最近運用したのから、自動的に古い方へと並び替えます。

オプションユニットについて

トーンスケルチ/ポケットビーブおよびページャー/コードスケルチなどの機能は、別売のオプションユニットが必要です。

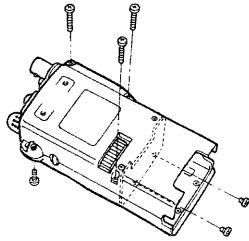
- UT-49:DTMFデコーダーユニット
ページャー/コードスケルチの運用ができます。
 - UT-50:トーンスケルチユニット
トーンスケルチ/ポケットビーブの運用とプログラマブルトーンエンコーダーとして使用できます。
 - UT-51:トーンエンコーダーユニット
38種のトーン周波数を送信することができます。
- *オプションユニットを装着すると、スターマークは2ヶ以上になります。

1. トランシーバーの分解方法

(1)電源を切り、バッテリーパック、または外部電源を外しておきます。

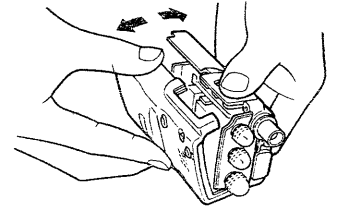
(2)図の位置にあるビス6本を外してください。

※ご注意
使用するドライバーは、ネジ山がつぶれないように、ネジ山によくあったプラスドライバーを用いてください。

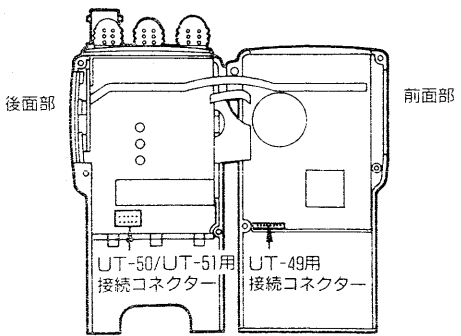


(3)本体は前面部と後面部にわかれますので、図のようにして開けてください。

※ご注意
●トップパネル(上面部)のツマミ類が、後面部にくっつくように指を添えて開けてください。



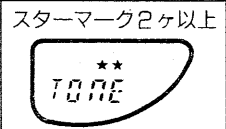
2. ユニットの取付け



それぞれのユニットを矢印のコネクターに差し込んでください。

トーンスケルチ(UT-50)の使いかた

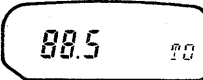
■ディスプレイBの表示
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“TONE”表示にしておく。



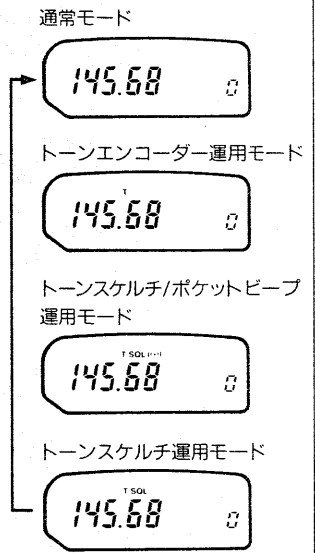
■トーン運用モードの設定 ■トーン周波数の設定

[S]を押す。(ワンタッチ)
[S]をワンタッチ押すごとに、次のように運用モードが切り替わります。

1. [F]を押しながら[S]を押す。
ディスプレイA:トーン表示



2. [ダイヤル]を回す。
[ダイヤル]を回すことにより、次表のトーン周波数の中から選択することができます。



67.0	107.2	167.9
71.9	110.9	173.8
74.4	114.8	179.9
77.0	118.8	186.2
79.7	123.0	192.8
82.5	127.3	203.5
85.4	131.8	210.7
88.5	136.5	218.1
91.5	141.3	225.7
94.8	146.2	233.6
97.4	151.4	241.8
100.0	156.7	250.3
103.5	162.2	単位:Hz

●右枠のトーン周波数を設定したのち、上記運用モードを設定し、通常運用と同様に交信を行います。

3. [S]または[PTT]を押し、元の運用モードに戻す。

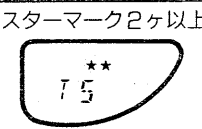
※トーンスケルチ機能には、トーンスケルチ(UT-50)が必要です。

●トーンスケルチ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、トーンスケルチが開いて通話内容が聞えますので、快適な待ち受け受信が行なえます。

●ポケットビーブ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビーブ音(“ピロピロピロ”の連続音)が鳴り続け、同時に“(●●)”を点滅して知らせますので、聞き逃すことはありません。呼び出しを受けたら、30秒以内にPTTスイッチを押して通話するか、Sスイッチを押してポケットビーブ機能を解除(“(●●)”が消灯する)して、トーンスケルチ機能にします。また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビーブ音は自動停止しますが、ディスプレイの“(●●)”は点滅状態を続け、呼び出しの受けたことを知らせます。

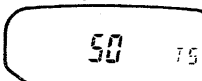
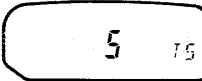
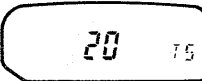
周波数ステップ(TS)の変更のしかた

■ディスプレイBの表示
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“TS”表示にしておく。



■TSの設定操作

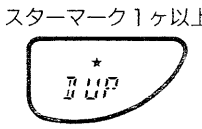
- [S]を押す。
ディスプレイA:TS表示
- [ダイヤル]を回す。
周波数ステップを、次の中から選んで設定します。
5-10-12.5-15-20-25-30-50
通常は、20kHzステップです。
- [S]または[PTT]を押し、元の運用モードに戻す。



TSとは、周波数ステップ(スキャンのステップも同じ)のことで、通常はダイヤルを回すと、20kHzステップで周波数が変化し、上記操作で7段階の設定ができます。

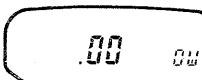
オフセット(レピータシフト)周波数の変更

■ディスプレイBの表示
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“DUP”表示にしておく。



■変更のしかた

- [F]を押しながら[S]を押す。
ディスプレイA:オフセット表示
- [ダイヤル]を回す。
0~60MHzまでの範囲で、10kHz単位のセットができます。
※[F]を押しながら[ダイヤル]を回すと、100kHzステップになります。
- [S]または[PTT]を押し、元の運用モードに戻す。



オフセットとは、レピータの送受信周波数の差を設定するもので通常のレピータは5MHzですから操作はいりません。取扱説明書は説明を省いていますがスターマーク1ヶのときでも操作ができます。(この機能はIC-P3のみ)

ページャー/コードスケルチについて

●ページャー機能

この機能は、ある特定局との待ち受け、呼び出しを行う場合に大変便利な機能です。

あらかじめ、交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け、グループ一斉呼び出し/待ち受けなどができます。また、呼び出されたときはピープ音(ピロピロピロ...)で知らせると共に、呼び出した側のコードも表示されるので、確実な待ち受けをすることができます。

●コードスケルチ機能

この機能は、ある特定局との交信を行う場合に、大変便利な機能です。自局でセットしたコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き通話内容が聞こえますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチと同様の運用ができます。また、トーンスケルチとの併用もできます。

●局コードについて

ページャーおよびコードスケルチを運用する場合、自局と相手局(グループも含む)のコードを、あらかじめ打合せて、決めておきます。コードは3桁の数字で組み合わせます。

コードメモリーの機能について

あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。

メモリーメンバー	用途	待ち受け動作	コードの書き替え
C0	自局の個別コード	常時可能	可能
C1	相手局の個別コード またはグループコード	待ち受け「拒否」と 待ち受け「応答」を 選択できる	
C2			
C3			
C4			
C5			
CP	受信した相手局のコード	動作しない	不可

①メモリーナンバー[C0]

自局の個別コードを書き込むメモリーです。このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、相手局の個別コードまたはグループコードの次に送られます。

②メモリーナンバー[C1~5]

相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、待ち受け動作を「拒否」または「応答」に設定できます。拒否しているときに、書き込まれたコードと同じコードを受信しても、応答しません。

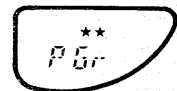
③メモリーナンバー[CP]

ページャー機能で呼び出しを受けたとき、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

■ディスプレイBの表示

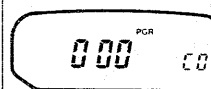
スターマーク2ヶ以上

[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“PGR”表示にしておく。



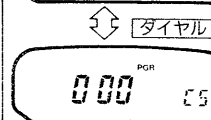
(1)コードメモリーの呼び出ししかた

1. [F]を押しながら[S]を押す。



2. [ダイヤル]を回す。

C0-C1-C2-C3-C4-C5-CP
の切り替えができます。



(2)コードの設定のしかた

1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。

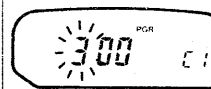


2. [S]を押す。

1桁目が点滅します。

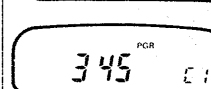


3. [ダイヤル]を回して、1桁目をセットする。



4. [S]を押す。

2桁目に移ります。以下、同じ操作で3桁セットします。



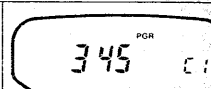
5. [F]を押す。

点滅が止まり、書き込み完了です。

6. [ダイヤル]を回すと、次のメモリーに、[PTT]を押すと、周波数表示になります。

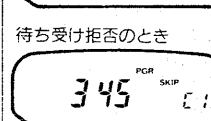
(3)待ち受け機能の選択のしかた

1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。



2. [V/M]を押す。

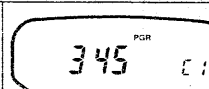
[V/M]を押すごとに、“SKIP”表示が点灯/消灯する。



待ち受けの選択は、グループの中で他局同士が呼び出しをかけたとき、C1~C5のメモリーにそのコードが書き込まれていると、関係のない受信をすることになり、これを防ぐために、待ち受け拒否を行います。

(4)ページャー/コードスケルチの送信のしかた

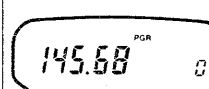
1. 呼び出しをかける相手局のコードが書き込まれたメモリーを呼び出す。(左欄(1)の操作)



2. [PTT]を押し、周波数表示にしたのち運用周波数を設定する。

3. [S]を押す。

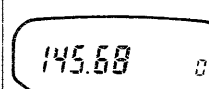
[S]を押すごとに“PGR”と“C SQL”の運用モードが設定できます。



4. [PTT]を押し、送信する。(1~2秒)このとき、コードを送出します。

$\frac{345}{\text{相手コード}} \times \frac{001}{\text{自局コード}}$ ※C SQL時は相手コードのみ

5. 相手局から応答を受信すれば、[S]を押し、“PGR”“C SQL”を消灯させ、通常の周波数表示にする。

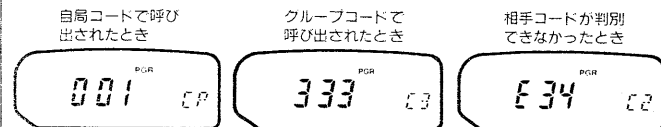


6. 通常の交信に入ります。

(5)ページャー/コードスケルチの受信は

相手局からの呼び出しを待ち受ける場合は、[S]スイッチで“PGR”または“C SQL”モードにしておきます。

相手からのコードを受信すると、次の表示になります。

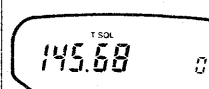


※相手コードはCPにメモリーされる

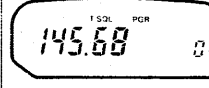
トーンスケルチと併用ができる

●トーンスケルチユニット(UT-50)を装着しているときは、併用運用ができます。

1. ディスプレイBを“TONE”表示にし、“T SQL”運用モードにする。



2. ディスプレイBを“PGR”表示にし、“PGR”または“C SQL”運用モードにする。



※このときも、呼び出し確認後は、“PGR”または“C SQL”を消灯して交信します。

タイマーのセットのしかた

■ディスプレイBの表示

[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“TIME”表示にしておく。

スターマーク5ヶ



タイマーは、次の3種類があります。

- (1)一定時間後に電源をOFFにするオートパワーオフ
- (2)指定の時刻に電源をONにするオンタイマー
- (3)指定の時刻に電源をOFFにするオフタイマー

■各タイマーを呼び出すには

[S]を押す。
[S]を押すごとに、タイマーの種類が切り替わります。

- (1)オートパワーオフ
- (2)オンタイマー
- (3)オフタイマー

(1)オートパワーオフのセット

1. [S]を押し、オートパワーオフの表示にする。
 2. [ダイヤル]を回し20/40/60(分)を選択する。
- このとき、ディスプレイBに“AO”が点灯する。
3. [PTT]を押し、元の運用モードに戻す。
 4. 設定した時間(分)を経過すると、ディスプレイAの表示がすべて消灯し、パワーオフ状態になります。

このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするためのもので、1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

(2)オンタイマーのセット

1. [S]を押し、オンタイマー表示にする。
 2. [ダイヤル]を右に回して、時刻セット状態にする。
- このとき、ディスプレイBにオンマークが点灯。
3. [F]を押ししながら、[V/M]を押す。
 4. [ダイヤル]を回し、“時”をセット。
 5. [S]を押す。
 6. [ダイヤル]を回し、“分”をセット。
 7. [F]を押ししながら、[S]を押す。
ディスプレイAが消灯し、タイマーがスタートする。
ディスプレイB

現在時刻の表示
 8. タイマー時刻になると、運用状態に戻る。

■タイマーを解除するには：オートパワーオフタイマーの解除は、“OFF”にセットします。オンまたはオフタイマーの解除は、上記2の操作で[ダイヤル]を左に回します。なお、これらのタイマーは複合して使用もできます。

(3)オフタイマーのセット

1. [S]を押し、オフタイマー表示にする。
 2. [ダイヤル]を右に回して、時刻セット状態にする。
- このとき、ディスプレイBにオフマークが点灯。
3. [F]を押ししながら、[V/M]を押す。
 4. [ダイヤル]を回し、“時”をセット。
 5. [S]を押す。
 6. [ダイヤル]を回し、“分”をセット。
 7. [PTT]を押す。
周波数表示に戻り、タイマーがスタートする。
 8. タイマー時刻になると、ディスプレイAが消灯し、パワーオフ状態になる。
ディスプレイB

現在時刻の表示

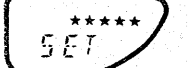
プログラムスキップスキャンのしかた

●プログラムスキップスキャンを行うためには、セットモードの“PS”の項目をあらかじめONにしておきます。

■ディスプレイBの表示

[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“SET”表示にしておく。

スターマーク5ヶ



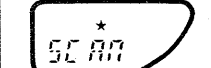
1. [S]を数回押し、“PS”の項目にする。
 2. [ダイヤル]を回し、“ON”表示にする。
- 以上で準備が完了です。

スキップ周波数の登録のしかた

■ディスプレイBの表示

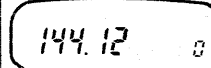
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“SCAN”表示にしておく。

スターマーク1ヶ以上

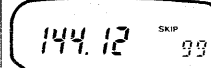


1. [V/M]を押し、VFOモードにする。
 2. [S]を押し、スキャンをスタートする。
信号を受信すると、スキャンは一時停止します。
 3. [F]を押しながら[V/M]を“ピッピピ”と鳴るまで(約1秒)押す。
99CHにスキップ周波数として登録されます。以下、一時停止中に3の操作を行いますと、順次登録されます。
登録は99~10CHまでの80CH可能です。
- 以上の操作で登録された周波数は、以後に行うすべてのスキャンから除外されます。

一時停止した周波数



スキップ登録したとき

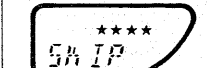


この周波数な、以後のスキャンではスキップされる。また、メモリスキャン時も、99CHはスキップされる。

登録の取り消しかた

登録されたスキップ周波数を取り消す場合は、登録されたメモリーチャンネルを呼び出し、スキップ/マスク指定の項の操作を行います。

スターマーク4ヶ以上



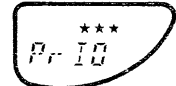
●呼び出したメモリーに“SKIP”が表示されていますので、“SKIP”を消す。またはマスクチャンネルにしてください。

プライオリティスキャンの操作

■ディスプレイBの表示

スターマーク3ヶ以上

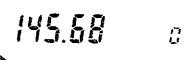
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“PRIO”表示にしておく。



■プライオリティスキャンのスタート/ストップ

●プライオリティスキャンは、VFO周波数と、指定のメモリーチャンネルをワッチしますので、ワッチしたいメモリーチャンネルを呼び出しておきます。

1. VFO周波数を設定する。

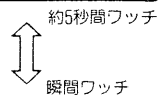
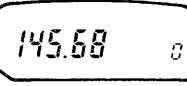


2. ワッチしたいメモリーチャンネルを呼び出す。

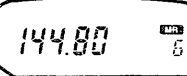


3. [S]を押す。

プライオリティスキャンがスタートします。VFO周波数を約5秒ワッチし、メモリーチャンネルを瞬間的にワッチする動作を繰り返して行います。



4. メモリーチャンネルで信号を受信すると、スキャンが一時停止します。約10秒後再スタートしますが、この再スタートは、通常のスキャンと同じ条件になっていますから、セットモードで変更ができます。

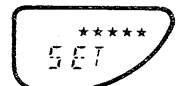


5. 再度[S]を押すことにより、プライオリティスキャンの解除ができます。

※メモリーチャンネルで一時停止中のときは、[S]を2回押しと解除します。

■再スタートの条件を変えるには

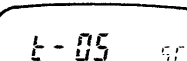
1. スターマークを5ヶにします。



2. セットモードにします。

3. 再スタートの条件を変更します。

変更を行った後、スターマークを3ヶ以上で運用できます。

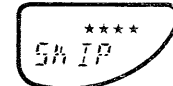


スキップ/マスクチャンネルの指定

■ディスプレイBの表示

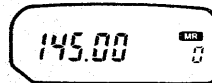
スターマーク4ヶ以上

[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“SKIP”表示にしておく。

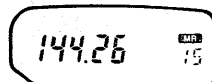


■スキップ指定のしかた

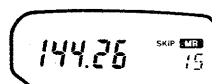
1. [V/M]を押し、メモリーモードにする。



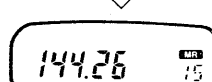
2. スキップ指定をするメモリーCHを呼び出す。



3. [S]を押す。

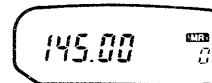


4. 取消しかた [↑][S]を押す

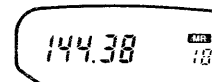


■マスク指定のしかた

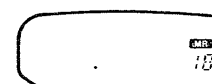
1. [V/M]を押し、メモリーモードにする。



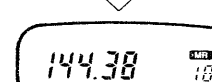
2. マスク指定をするメモリーCHを呼び出す。



3. [F]を押しながら[S]を押す。



4. 取消しかた [↑][F]+[S]を押す



■スキップおよびマスク指定を行うと

●スキップまたはマスクが指定されたメモリーCHは、メモリースキャン時、スキップしますので、スピーディなスキャンができます。

●マスクを指定しておきますと、ダイヤルでメモリーCHを呼び出すとき、これを除外します。

なお、マスクされたCHには、元の周波数がかくれていますので、マスクを取消すと、元の周波数が現れます。

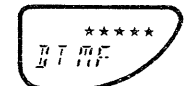
※スキップまたはマスクの指定は、スターマークが4ヶ以上でなければできませんが、指定を行ったのち、スターマークを3ヶ以下にして、メモリースキャンを行っても、この指定は有効です。

DTMFコードの取扱い

■ディスプレイBの表示

スターマーク5ヶ

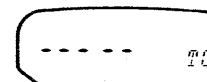
[S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“DTMF”表示にしておく。



1. DTMFメモリーの呼び出し

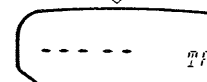
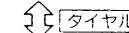
1. [S]を押す。

ディスプレイA：メモリー表示。



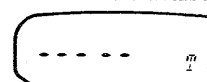
2. [ダイヤル]を回す。

メモリーは、T0~TFの16CHあり、1つのメモリーに15桁までのコードを記憶できます。



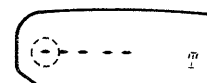
2. DTMFコードの記憶のしかた

1. 上記の操作で、記憶させたいメモリーを呼び出す。

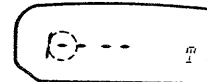


2. [F]を押しながら[S]を押す。

1桁目が点滅します。

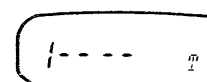


3. [ダイヤル]を回し、コード(0~F)を設定する。

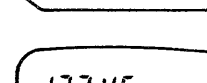


4. [S]を押す。

点滅が次の桁に移ります。

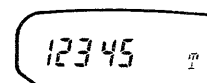


5. 以下、3,4の操作を繰り返す。



6. [F]を押す。

点滅が止まり、記憶されます。



7. [PTT]を押し、周波数表示に戻す。

※次のメモリーに移るときは、[ダイヤル]を回します。

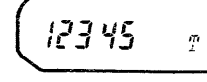
表示は5桁ごとに切り替わり、15桁まで入力できる。

3. DTMFコードの送付のしかた

1. 送付したいメモリーを呼び出し、周波数表示に戻す。

送信中はコードを表示

2. [PTT]を押しながら[S]を押す。

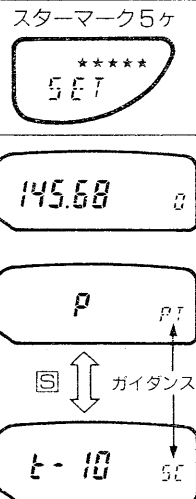


※記憶させたメモリーを呼び出し、[S]を押すと、記憶内容の確認ができます。

セットモードについて (初期設定された運用条件を変更するには)

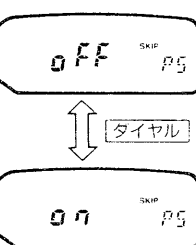
セットモードに入るには

- ディスプレイBの表示
- [S]を押し続けながら[ダイヤル]を回し、“SET”表示にしておく。
1. [V/M]を押し、VFOモードにする。
※メモリーモードからは、セットモードに移れません。
2. [S]を押す。
セットモードになり、以後[S]を押すごとにセット項目(ガイダンス)が切り替わります。
[V/M]を押すと、セット項目は逆に回ります。



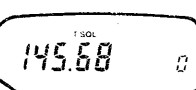
セット項目が表示されたら

3. [ダイヤル]を回す。
[ダイヤル]を回すことにより、初期設定されている内容を、変更することができます。



内容の変更が終わったら

4. [PTT]を押す。
元の運用表示に戻ります。



変更後の運用について

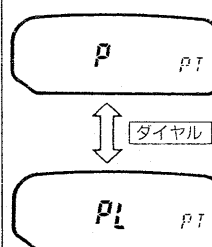
- セットモードでは、右枠に示すような項目について、運用しやすい条件に変更できます。
- 変更した内容は、スターマークに関係なく有効となりますので、使いやすい条件を選んで設定しておきます。

セットモードで変更できる運用条件とは

ディスプレイの上部の図が、出荷時に初期設定された値です。

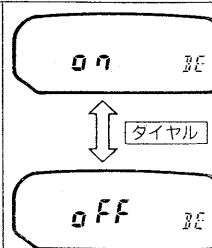
1. PTTの働きを無効にする

- [PTT]スイッチを押すと、送信状態になりますが、送信中は電池の消耗が厳しくなります。
このため、まちがって[PTT]を押しても送信にならないようにする機能です。
- “PL”表示にすると、[PTT]の送信機能のみ無効にします。



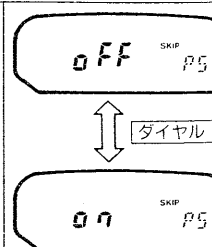
2. ビープ(操作音)を無効にする

- 操作が正しく行われたかどうかをビープ音で知らせていますが、このビープ音が鳴らないようにする機能です。
- “OFF”表示にすると、ビープ音が出なくなります。



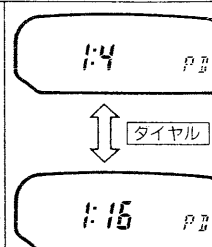
3. プログラムスキャンをONにする

- プログラムスキップスキャン時に、スキップ周波数を登録する機能をONにすることができます。
※参照：プログラムスキップスキャンの項



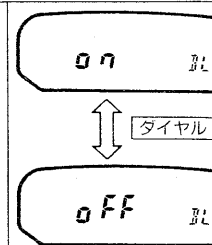
4. パワーセーブの時間比を設定する

- 電池の消耗を防ぐため、待受け状態のとき、パワーセーブ機能を働かせています。
- パワーセーブが働くと、機器は休止状態となり、電池の消耗を最小限にします。
- 待受け状態と休止状態の時間比を設定する機能です。
※ “OFF”表示にすると、パワーセーブは動作しません。



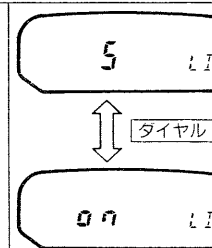
5. 受信ランプの点灯をなくする

- 信号を受信すると、受信ランプが緑色に点灯します。
電池の消耗を防ぐためのもので、受信しても点灯しないようにする機能です。
- “OFF”表示にすると、受信ランプが点灯しなくなります。
※送信(赤)ランプは点灯します。



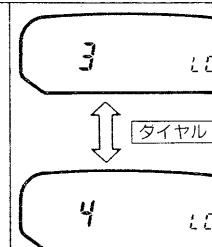
6. ディスプレイ照明を手動にする

- ディスプレイの照明は、通常5秒間で自動消灯します。
- “ON”表示にすると、[LIGHT]スイッチのON/OFF操作で、点灯/消灯ができ自動消灯がなくなります。



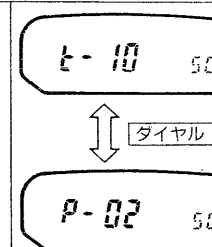
7. ディスプレイの表示の濃淡を変える

- ディスプレイの表示は、周囲の明るさによって見やすさが変わります。
周囲の条件に応じて、いちばん見やすくなるためのものです。
- 通常は“3”にセットされていますので、1~4までの見やすいところにセットしてください。



8. スキャンの再スタート条件を変える

- スキャン中、信号受信で一時停止したときから、再スタートするタイマーを変更することができます。
 - t-10: 信号受信10秒後スタート。
 - t-05: 信号受信 5秒後スタート。
 - P-02: 信号が途切れるまで受信し、途切れてから2秒後にスタートする。
- ※プライオリティスキャン時も有効です。



機能選択モードのまとも

本機は、多機能操作ができますが、運用目的に応じた便利な使いかたができます。

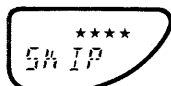
例. メモリースキャンを効率的にする

●例えば、通常の交信以外にスキャンを多用する方は、次の方法で快適なスキャン運用が、スターマーク1ヶで運用できます。

1. 機能選択モードにする。
(**[S]**+**[MONI]**を押しながら電源ON)

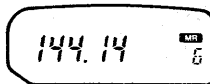


2. スターマークを4または5ヶにする。
(**[ダイヤル]**で選択後**[PTT]**を押す)



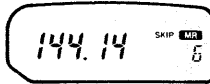
3. "SKIP"機能表示にする。
(**[F]**を押しながら**[ダイヤル]**を回す)

4. メモリーモードにする。
(**[V/M]**を押す)



5. スキャンに必要なないメモリーを呼び出す。
(**[ダイヤル]**を回す)

6. スキップを指定する。
(**[S]**を押す)
またはマスクを指定する。
(**[F]**+**[S]**を押す)

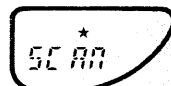


7. その他、スキャンに必要なないメモリーにも、5,6の操作を行う。



8. いったん電源を切り、再度機能選択モードにする。

9. スターマーク1ヶにする。



10. "SCAN"機能表示にする。

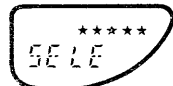
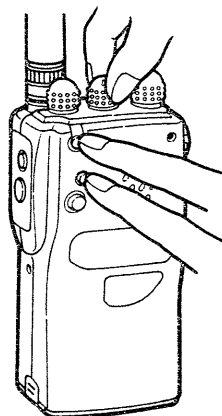
これでスターマーク1ヶのときでもメモリースキャンがメモリースキップスキャンになり、効率の良いスキャンができます。また、メモリー呼び出し操作もマスクCHを飛ばしますので、スピーディになります。

機能選択モードの戻りには

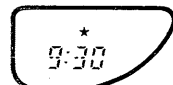
スターマークを1ヶに戻すには、次の2通りがありますが、通常は(1)の方法で戻してください。メモリーやセットモードの内容がそのまま運用できます。

1. 機能選択モードにして戻す

1. いったん電源を切り、
2. **[S]**スイッチを**[MONI]**スイッチを押しながら電源を入れる。

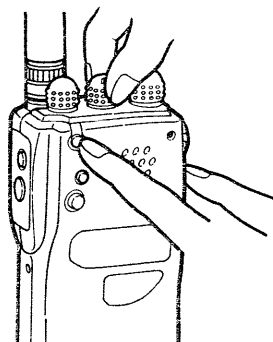


3. **[S]**を押しながら**[ダイヤル]**を回し、スターマーク1ヶにする。
4. **[PTT]**を押す。



2. 電源投入の特殊操作で戻す

1. いったん電源を切り、
2. **[S]**と**[LIGHT]**を押しながら電源を入れる。



この操作を行なうと、次の項目がリセットされますので、ご注意ください。

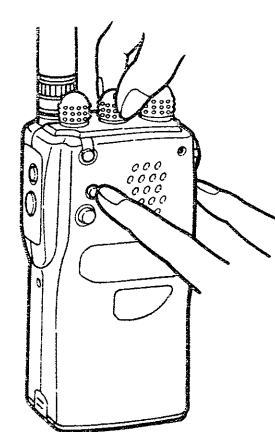
- ディスプレイA
(1)メモリー表示が"0"になる。
(2)VFOモードになる。
- ディスプレイB
(1)時計表示になる。
(2)★印が1ヶになる。
- メモリーチャンネルの内容
(1)10~99CHは、周波数はそのまま、スキップ指定等は消す。
(2)10~99CH、PA、PBCHは初期値に戻る。
- セットモードの内容
すべて初期設定値に戻る。

オールメモリークリア(リセット)について

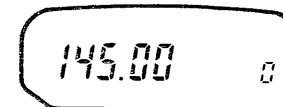
オールメモリークリア(リセット)

●この操作を行うと、運用状態(メモリーやセットモードで設定した条件)を、すべて出荷時の状態(初期設定値)に戻します。

1. いったん電源を切り、
2. **[LIGHT]**と**[MONI]**スイッチを押しながら、電源を入れる。



ディスプレイAの表示



IC-P3は433.00

ディスプレイBの表示



●リセット操作後の内容

項目	IC-P2	IC-P3
VFO周波数	145.00	433.00
メモリーチャンネル	0に戻る	0に戻る
メモリー周波数 0~9 CH	145.00	433.00
10~99CH	マスクされる	マスクされる
セットモードの設定値	初期設定値	初期設定値
時計/タイマー	0:00/すべてOFF	0:00/すべてOFF
スターマーク	★(1ヶ)	★(1ヶ)
機能表示	時刻 0:00	時刻 0:00

※セットモードの初期設定値は、本書の説明にあるディスプレイの上側の図が初期値です。

ご 留 意

- オールメモリークリア(リセット)操作は、メモリーなどを消してしまいますので、ご注意ください。
- 本機の操作が途中でわからなくなったときは、いったんスターマークを1ヶの状態(機能選択モードで戻す)にして、もう一度、本書を見ながら、操作をやり直してください。

トライアルモード(AIゲーム)の楽しみかた

トライアルモードのQ&A

- 次の質問にお答えください。
- YES, NOの入力のしかたは、右欄の説明をよくお読みください。
- このゲームは、あなたのアマチュア度(レベル)を判別するおあそびです。

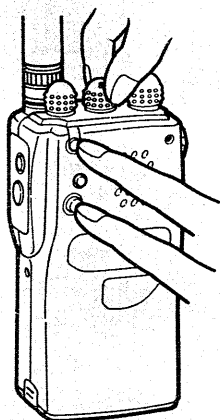
■チャレンジ(1)

Q1 周波数の単位は、Hz(ヘルツ)である。	Q2 ビデオのタイマー録画(留守録)の操作が難しくてできない。	Q3 友人は多い方である。
YES NO	YES NO	YES NO
Q4 ハンダゴテを持ったことがない。	Q5 1日1度はリグのスイッチを入れないと落ちつかない。	Q6 通信の秘密は、守らなければならない。
YES NO	YES NO	YES NO
Q7 QSO(交信)する相手局は、決っていないことが多い。	Q8 複数の周波数をワッチ(受信)していたい。	Q9 記憶力は、どちらかといえば、自信がない方である。
YES NO	YES NO	YES NO
Q10 デートの時間によく遅れる。	Q11 アマチュア語でX(エックス)さんとは、結婚している奥さんのことである。	Q12 ハム歴が1年以下である。
YES NO	YES NO	YES NO
Q13 取扱説明書は、必ずよく読む。	Q14 メモリーチャンネルを多く使う方である。	Q15 他人と同じ事をするのが嫌いである。
YES NO	YES NO	YES NO

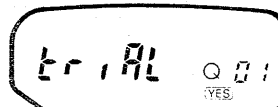
AIゲームの進めかたと結果の見かた

1. トライアルモードにする

1. いったん電源を切り、
2. [S]スイッチと[V/M]スイッチを押しながら、電源を入れる。



ディスプレイAの表示

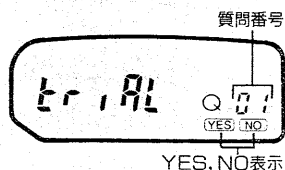


ディスプレイBの表示

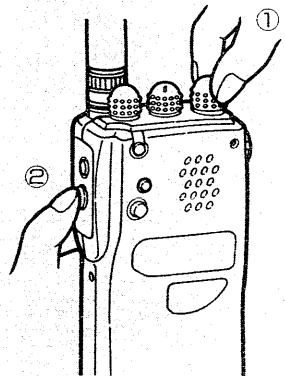


2. YES, NOを入力する

左記質問Q1~Q15までのYES, NOを次のように入力します。



YES, NO表示



- ① [ダイヤル]を回し、YES NOを決める。
左に回すと[NO]表示、YESの場合、ダイヤル操作はいらない。
- ② [PTT]を押す。
質問番号が変わります。
- ③以下、①②の操作を繰り返し、Q15まで入力する。
- ④Q15のあと[PTT]を押し、ゲーム完了です。

3. 結果について

- Q15までYES, NOを入力して[PTT]を押すと、ディスプレイAは、通常の表示に戻ります。
- このとき、ディスプレイBには、スターマークがそのレベルに応じて、1~5ヶまで表示されます。
- 表示されたスターマークの数により、運用できる機能が、自動的に決定されます。
- ※ この結果は、あくまでもおあそびの結果であり、正当なアマチュアレベルを決めるものではありません。
- あなたのレベルと、使いたい機能が合致したでしょうか? スターマークの数が多い程、多機能を扱えますが、日常運用する機能は★スターマークと運用できる機能★の表から選んで、使いやすい機能を設定してください。



■チャレンジ(2) もう1題おあそびをどうぞ

Q&A. あなたに合った運用スタイルは	判定
Q1. CQを出すとき緊張することはない。	★★★★★
Q2. バイルアップに恐怖感を覚える。	目さそうオーナー
Q3. QSOはのんびり、ゆっくりしたい。	ロール。
Q4. ハンディ機はいつも手離せない。	トップDX'er。
Q5. ハムの基本はHF帯だ。	★★★★
Q6. QSLカードは原則的には交換する。	ATA. WACA
Q7. ローカルラグチュー用周波数が決っている。etc.
Q8. CQ誌のローカルトピックスに載ったことがある。	国内アワードの鬼
Q9. 常置場所にはアンテナが2本以下しかない。	★★★
Q10. リグは3台以上もっている。	山や海、重装備た
Q11. QSBの意味は良く知っている。	ずさえ、移動運用
Q12. SSBの音声が良く聴きとれない。	がピッタリ。
Q13. 無線用の別荘を持ちたいと考えている。	★★
Q14. 欧文モールス60字/分のスピードはとれない。	モービル運用を中
Q15. 取扱説明書を読まずとも、だいたいの操作はわかる。	心にV/UHF帯の
	探求を。
	★
	ゆっくりじっくり
	ハンディ機でハム
	の勉強から。